



## Lord of Madness

By Keith Baker

キース・ベイカーによる新たなエベロンの拡張コラム 第1回は、Lords of Madness: the Book of Aberrations (未訳) の内容をエベロンに適合するよう改変する事に焦点を定めます。

### 概要：エベロンに於ける異形の役割

エベロンに於いて、全ての異形は共通の起源を持っています。何千年も前に、デルキールとして知られるクリーチャーが次元界からエベロンへの侵略の先鞭を切りました。真の狂気の君主であり、肉の彫刻家達はゾリアットから沢山の恐怖を引き連れてきました。デルキールがその鉤爪をエベロンに食い込ませたとき、彼らの鉤爪からこぼれおちたクリーチャーすら不運にも捻じ曲げられ、墮落させられました。結局は、肉の彫刻家は敗退し、今でも新たな脅威を生み出し続けているカイバーの暗闇の中に閉じ込められました。

しかしデルキールが全てのエベロンの異形を生み出した訳ではありません。神話によると、世界は3匹のドラゴンから生み出されました。中たるドラゴン、エベロンは、全ての自然なクリーチャーの源であり、下のドラゴン、カイバーは、フィードや異形を生み出しました。デルキールが地下の暗闇でモンスターを作り出している間にも、カイバーは自ら恐ろしい物を自ら生み出し続けています。ビホルダー、マインド・フレイヤー、グレルを含む多くの異形がデルキールによってエベロンへと連れてこられたゾリアットの住人ですが、来訪者ではありません。ちょうど、エレメンタルやライカンスローブがラマニアにおり、フェイがセラニスにいるように、異形の場所はゾリアットです。

歴史に関する問題を除けば、Lords of Madness (未訳) の内容は、エベロンにとってもうまく適合します。例えば、アボレスの戦術、グラフト、特技はこの本から直接持ってくる事ができますが、これらのクリーチャーにそれらを使おうとすれば、どのようにエベロン、カイバー、ゾリアットの歴史に適合するのかをDMが決めなければなりません。

次の章では、Lords of Madness (未訳) のそれぞれの章について、エベロンでのキャンペーンに於ける利用方法と内容の変更についてお勧めの案を提示します。

### アボレス

Lords of Madness (未訳) によれば、アボレスの文明は最も古くから存在しています。これらのクリーチャーの記憶は有史以前から残されており、彼らは人間の知識からは薄れてしまった古代の悪を思い出すことができます。僅かで小さな変更を加えるだけで、エベロンにこの概念を適用することができます。



エベロンの神話では、黎明期に戦争があったと伝えられてます。多くの伝説では最初のフィードとしてラクシャーサが語られており、ラクシャーサが光に対する最も古い敵であったと語られています。

しかしこれらのクリーチャーはカイバーの子供達だけではありませんでした。最初のラクシャーサが作られたのと同じ時に、大海がアボレスの家になりました。ラクシャーサは大地を支配し、アボレスはほぼ知られていない深い水の

中を支配していました。共にドラゴンやコアトルと戦い、同時にシルヴァーフレームによって太古の悪が捕えられるのを経験しました。この敗北の後、アボレスはドラゴンに見つけれない深海へと逃げ込みました。何百という千年紀が過ぎるうち、アボレスはゆっくりと戻ってきて、世界に影響力をじわじわと広げていきました。

今、アボレスはシルヴァーフレームが消えそうになる日を待ち続け、太古の悪が復活し、世界を我が物にしようとしています。

君がこの内容をエベロンの歴史として受け入れるなら、アボレスはロード・オブ・ダストと同世代のものとなり、チャンバーとシルヴァーフレーム教会の敵となります。太古の悪、シルヴァーフレームによって捕らえられた古代の力は、ラクシャーサのラジャとして知られることとなります。エベロンの歴史では、全てのラクシャーサを超える強大な存在であり、独特の存在としてこの大君主が描かれ、Lord of Madness (未訳) に書かれている太古の悪の条件を満たすこととなります。これで、彼らはロード・オブ・ダストと同じ影響力とデーモン荒野の死肉漁りを演ずることが出来ます。

ドラゴンやラクシャーサと同じように、アボレスは徹底してドラゴンの予言書を調査しており、理解できるだけの知見を持っており、その知識を深い水の中へと隠しています。ラクシャーサと同じく、アボレスはドラゴンに復讐を誓っており、ドラゴンの予言書の道を捻じ曲げようとしています。結果、チャンバーの為に働くキャラクターは、簡単にアボレスや彼らの代理人と敵対することとなります。

## ビホルダー

ビホルダーは、デルキールによる侵略の際、生きた弓兵隊として、彼らの「目」が持つ恐怖の力をゴブリン軍全体を潰走させる為に振るいました。エベロンに於いて、ビホルダーは自然繁殖せず、独自の文化を作り上げませんでした。彼らは、デルキールの不死なる僕なのです。ビホルダーの多くは、地下竜教団の隠れたリーダーとして、地下深くの辺境を支配する主に仕え続けています。僅かなビホルダーはひとりで生き、神秘について考察するか、世界を旅します。このような単独のビホルダーは人型生物の共同体を操るかもしれませんが、彼らの行動は個人の力に対する欲望が強く、こうしたことは滅多に行われることはありません。

ビホルダーの文化と生殖方法を別にすれば、Lord of Madness (未訳) に書かれている情報をエベロンのビホルダーに当てはめることができます。地下竜教団のメンバーは、これらのクリーチャーが持つ偉大なる目の力が有効であると信じています。幾人かは、強大なデルキールであり、目の君主として知られる **Belashyrra** にビホルダーが仕えているのだと強く主張します。他の者達は、ビホルダーそのものがゾリアッドの目であると…、デルキールに仕えている間に、ビホルダーはより強力な力を導く器官となり、肉体をより恐ろしいものに変貌させたのだと主張します。

## マインド・フレイヤー

マインド・フレイヤーは、デルキールの僕頭です。エルダー・ブレインは、デルキールが作り出したものかもしれませんが、デルキールの精神的かつ肉体的な延長なのかもしれません。いずれの場合でも、エルダー・ブレインはデルキールと繋がっており、僕達を監視するテレパシーのネットワーク網を形成しています。

エベロンはデルキールが初めて攻撃した世界という訳ではありません。デルキールが、ギス種族の原住世界を破壊した際、(ギスから)マインド・フレイヤーが生み出された可能性があります。もしそうなら、ギスゼライとギスヤンキは、キスーリとアストラル界に逃げ延びた僅かな生存者達の子孫になり、マインド・フレイヤーはドルガントとドルグリムと同じやり方によって捻じ曲げられた最初の種族の子孫ということとなります。

## ネオギ

かつて、力強いドワーフの帝国が、アイアンルート山脈の麓に広がっていました。近代のムロールの一族の創始者はこの王国からの亡命者でした。彼らの子孫が遂に最深部に戻ったとき、彼らの先祖の祖国は、はるか昔にデルキールに滅ぼされていることを知りました。しかし、滅亡した王国のごく僅かな生き残りがいました… その生き残りがネオギです。

ドルカントがホブゴブリンから作られたのと同じように、ネオギはドワーフから作られたのです。ネオギは、以前の種族とは全く身体的な類似点はありませんが、ドワーフの精神の本質である燃えるような貪欲さは残されており、ネオギの活動の根源として残り続けています。

つい最近まで、ネオギはただの伝説に過ぎませんでした。恐らく、彼らはまどろみの中にいて、ドワーフの探検家があまりにも深く深いアイアンルート山脈の深部に辿り着いたとき、遂に目覚めたのでしょう。現在、ネオギはコーヴェア大陸の北西部のどこにでも現われることができます。彼らのトンネルはアイアンルート山脈から遠く離れたところまで広がっており、ネオギの掠奪者はラザー公国連合、カルナス、タレンタ平野に現れます。

ネオギは確かにデルキールが創造したのですが、彼らは現在までゾリアットの支配者との直接の絆を持っていません。その為、Lords of Madness (未訳) によるネオギの文化は、ネオギの船が世界の間を旅することはないという点を除けば、書かれた通りに適用できます。しかし、デルキールは、特異な精神能力を使って、ネオギを操ることができます。もしそうなら、奴隷商人はいつか自らが奴隷であることに気が付き、非常に驚いているのかもしれませんが。

## グレル

グレルはぞっとするような食欲によって活動する邪悪な捕食者です。エベロンの他の異形の多くとは異なり、このゾリアットの原住生物は、デルキールによって連れてこられませんでした。正確に言えば、彼らはゲートキーパーが講じた封印する前に次元界の間を漂い、この世界へと辿り着きました。

エベロンのグレルは、ダメージ減少 5/バイシュクを持つということを除けば、Lord of Madness (未訳) に説明されている全ての項目を適用することができます。

## Tsochar

デルキールはシンビアントとグラフトを自らに用いることで悪名高く、この肉の彫刻家が、寄生したクリーチャーを奴隷にし、破壊する存在であるTsocharをも生み出しているとしても驚くにはあたりません。デルキールが世界を侵略するときはずっと、生ける武器としてTsocharは解き放たれます。一旦、解放されると、このクリーチャーは原住生物に潜入し、ゾリアットの軍勢を脅かす可能性のある全てのクリーチャーから秘術の知識を盗み取る為に活動範囲を広げていきます。

Tsocharは極めて宗教的ですが、エベロンでは、彼らはMak Thuum Ngatha によりもデルキールとゾリアットの力に仕えています。Tsochar は地下竜教団と結び付いており、Tsocharに寄生されることは、地下竜教団の司祭にとって熱望する最高の栄誉となっています… それが例え自らの死と結びついていたとしても。新たな地域に教団が進出する際、Tsocharは優秀な媒体になります… 突然、フィアハーヴェンの街道に現れる熱狂的な辻説法師は、Tsocharの寄生者であつたりします。

彼らは、ゾリアットの支配者の忠実な僕のままですが、Tsocharは自らが全ての他のデルキールが作り出した種族より

優れていると考えています。彼らには、明確な権力を持つ地位にいながらも、他の異形を避ける傾向があり、特に元のクリーチャーが、イリシッドが占める地位を羨むことから、マインド・フレイヤーには強い対抗意識があります。

## 異形の狩人

Lord of Madness (未訳) の第9章は、異形に焦点を当てたプレイヤー・キャラクターの作成に関する選択肢を提示しています。このようなクリーチャーの狩るキャラクターと、異形の存在によって傷つけられた者の両方についてです。これら全ての選択肢について詳細な説明がLord of Madness (未訳) には書かれていますが、この新しい内容は、エベロン・ワールドガイドにとって、特別な3つの要素に関係しています。

## 古代の守り人

ゾリアットによる侵略前、ドラゴンであるヴァラークはコーヴェアに現れ、異世界から原住世界を守る為にオークの団にある特別な儀式を授けました。こうして、(エベロン・ワールドガイド p243にある) 門を護る者が生まれました。門を護る者は、最終的にデルキールに勝利し、彼らをデルキールに幽閉したのです。今日、僅かに残っている門を護る者が古代の封印を護っており、捻じ曲げられたゾリアットの僕を狩っています。

アボリッシャー 上級クラスは、門を護る者の団に完全に適合し、Lord of Madness (未訳) にある全ての一般特技は、門を護る者のレンジャーやドルイドの為に適用できます。keeper of the Cerulean Sign とtopaz guardian は共に門を護る者としての共通の目的を持っていますが、そのやり方は異なっています。これらのクラスを持つキャラクターは、ドラゴンによって教えを受けたSeren島の人々に見られるものと極めて似ているでしょう。アボレスとの死闘を予見するチャンパーのドラゴンは、keepers of the Cerulean Sign を自らの戦闘を支援して貰う為、召集することがあるかもしれません。

ダークランナー 上級クラスは、門を護る者に適していますが、同じようにムロール・ホールドのドワーフに最適です。多くのドワーフが滅亡した王国の歴史を掘り返すことに興味を持っており、ムロールの一族の最も偉大な英雄の幾人かは、アイアンルート山脈麓の深部で異形と戦った者達なのです。

サンクチファイド・マインド 上級クラスは、カラシューターのキャラクターに最も適しています。サンクチファイド・マインドは異形のサイオニック・パワーと戦うのに適していますが、ドリーミング・ダークとカラシューターの間で進行している戦いに於いて実によく適合します。

## 地下竜教団

地下竜教団は、エベロンに於いて異形による腐敗の主な原因です。憎悪と腐敗の領域を持つことから、Lord of Madness (未訳) のフレッシュウィーパー 上級クラスとアベラント 上級クラスは全てこの教団の信者に適切です。この教団の信念や組織体が統一されていないという事実は、教団のメンバーに異なる領域を提供することによって反映することができます。全ての領域への自由なアクセスを許す代わりに、DM は各カルトのために腐敗、地下竜、土、悪、憎悪、狂気から3つを選択させるようにしたほうがよいでしょう。



## 特異の血脈

エベロン・ワールドガイドに説明のある特異型ドラゴンマークは、Lord of Madness (未訳) の中で興味深い関連を作り出すのに役立ちます。ふたつの異なるドラゴンマークの血脈のメンバーが子供を作ると、一般的にこのようなマークが現れることとなります。強化することのできない貧弱なパワーを与える為、特異型ドラゴンマークは比較的無害であると思われがちですが、とても多くの迷信が彼らを取り巻いています。実際、物語ではそうしたマークの持ち主は、身体と精神が捻じ曲げられるとされています。

これが事実だとしたら？もし君がこのヴァリエントを使うのなら、特異型ドラゴンマーク特技は異形特技となり、他の全ての異形特技の前提条件を満たす目的で異形の血脈特技の代わりに使うことができます。特異型ドラゴンマークはそう悪いものでないように思うかもしれませんが、君のキャラクターが冷酷な行動や冷酷な展望を進めようとする、君の仲間は不安に思い始めるでしょう。

---

## 著者について

キース・ベイカーは小学校のときからDungeons & Dragonsの熱心なファンでした。彼の生活は2002年に彼が Wizards of the Coast Fantasy Setting Searchにエベロンの世界を提出したときに劇的に変化しました。Wizards of the Coast, Incの為にエベロン・ワールドガイドと最終戦争の影の作成したことに加え、彼はAtlas Games、Goodman Games、Green Roninの為に資料を作り上げました。